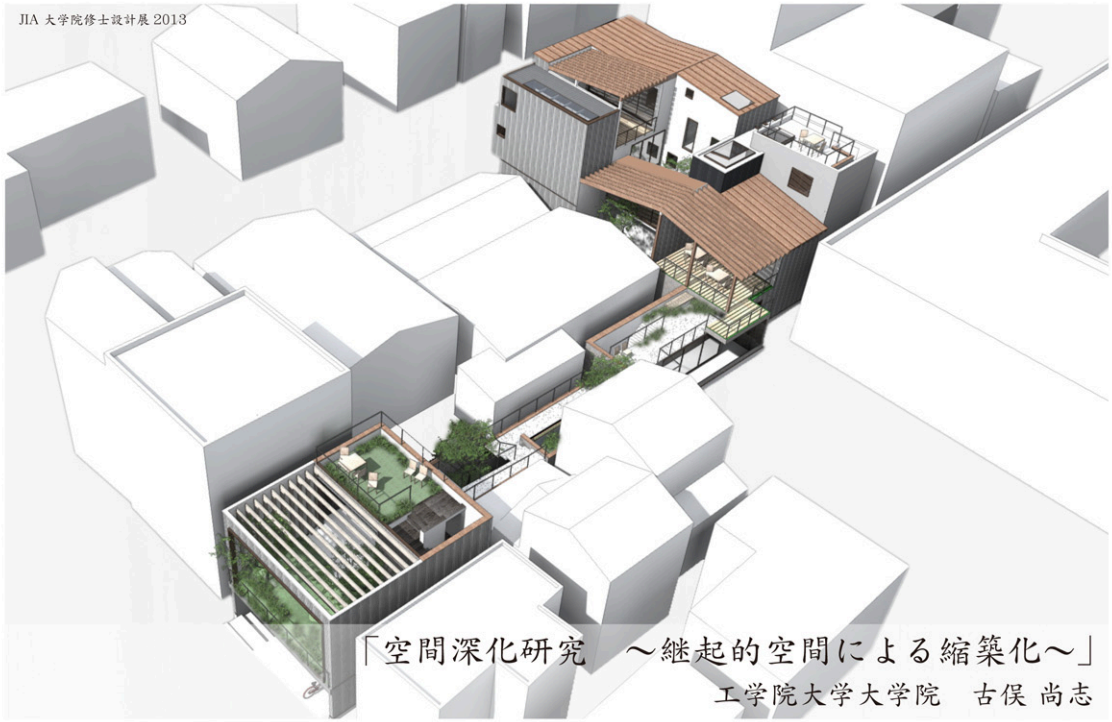
JIA 大学院修士設計展 2013



「空間深化研究　～継起的空間による縮築化～」

工学院大学大学院　古俣 尚志

1 問題提起 「移り変わりの中に見出す美意識の希薄化」

日本の伝統的空間には、**「すべて見せないことを美徳とし、小さな空間を大きく見せる、連想の美しさを求める、思いがけない空間を展開させ、その変化の美しさを狙う」**などの独自の空間形成思想が存在する。常に流れがあり、移り変わりの中に美を求める思想は、古くから多くの日本人に根ざすもので、今でも心の隅に生き続けている。

しかしながら現代、モビリティの発展に伴い、移動するプロセスを楽しむのではなく、いかに早く目的地まで移動出来るかが重要になっている。そのような社会の中、**気早になってしまっている私たちは、移動する間の小さな変化を飛ばしながら、時には重要な物までも見落としてしまっている。**移動過程よりも目的地までの速い手段を重要視してしまっている現代の人には、元来から根付いてきた日本独自の移り変わりの中に見出す美の意識を見失ってしまっているのではないか。

先を急ぐ現代人

2 提案 「日本建築の深さある空間の再構築 - 継起的展開性のある空間の応用 -」

「空間深化」 ＝ 継起的展開性のある空間を凝縮し構築すること

- 物理的距離を与えた深さ
- 心理的距離を与えた深さ

継起的空間
- 「プロセス」を主とする
- 継時的観照を誘う
- 位相幾何学的空間接続（空間境界域の重要性）

日本人の観念に基づく（「自然観」「無常観」）

||

「深さ」を与える基本概念

※ｉ）
「移動動作の制御」「見え隠れ」「境界域の設定」

※ii）
「重層化」「軸化」「重層化」「視界制御化」

＋

廻遊式庭園空間特性と演出

- 回遊式庭園基本特性８項目
- 桂離宮廻遊式庭園演出空間

＝ 縮築化 (Project)

凝縮し、建築化すること

桂離宮回遊式庭園の演出空間を抽出

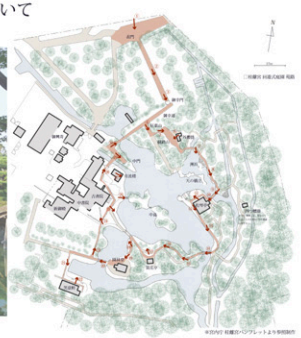
3 廻遊式庭園と継起的空間

□廻遊式庭園について

廻遊式庭園とは、日本庭園の形式のひとつであり、園内を廻遊して鑑賞する。人間の歩みによって、景観が移り変わっていくという、時間と空間の関係を壮大に繰り広げた庭園である。江戸時代の貴族の別邸や、将軍の大名の居城内や下屋敷に、多く作られた。前者を代表とするのが、桂離宮や修学院離宮であり、後者の秀れた遺構として、東京の六義園、後楽園、旧浜離宮、金沢の兼六園、岡山の後楽園などが例に挙げられる。最も一般的な形式として、池泉廻遊式庭園と呼ばれ、中央に有機的な形をした大きな池を持ち、おおむね池を右に見ながら、林を抜けたり、坂道を登ったり、橋を渡ったり、芝の広庭に出たりしながら、水面を眺めたり、滝の音を聞いたり、時には舟を浮かべて渡ったりして園内を廻遊する。日本の狭い空間、変化のある地形、特徴的風土、繊細で多様な生活の必要性に対応していく過程において、動きとして変化のある継起的な空間を独自に具現化してきた。廻遊式庭園の時空間の演出は絶妙とされ、日本の美意識に通じる空間構成の極地であるとも言われている。

自然 ―縮景化（空間省略化）（断片化）→ （日本）庭園 ＝ 建築
自然 ←メタファー― （日本）庭園
自然 →「継起性」を応用し、自然を縮景→ 廻遊式庭園※
（日本）庭園 || 廻遊式庭園※

□桂離宮 池泉廻遊式庭園について



※宮内庁 桂離宮パンフレットより参照抜粋

桂離宮は、簡素を旨としながらも意匠を凝らした建築群と、深山幽谷、あるいは海辺や田園の風景を効果的に配することによって、至上の美の空間を追求した庭園であり、いわば人と自然が関わりあう絶妙の間を具現化した日本の歴史的遺産である。

□池泉廻遊式庭園空間特性

1.「異質な小空間の連結」によって、全体を形成

「異質な小空間」が連続していくことに特徴を持つ

2. 中央には、開放的空間。多様な変化性のある空的外部空間の存在

回遊式庭園では、「池泉」。

3. 空間構成の変化と異質な空間の交替によって、リズムの形成

開放的空間と閉鎖的空間の交替と異質な空間同士の交替、二つの種類のリズムが存在。

4. 3のように空間交替のリズムを形成するが、時にその一様性を破る形で急激な空間変化を演出する。

歩行全体の中での単調さを破るために庭園空間全体でのストーリー性とシークエンスの中での空間の見せ場として位置づけられるもの

5. 空間を一部のみを見せるか、見え隠れによって構成されている。

次へ現れる空間への期待をもたらすとともに、予定調和とは異なる、意外性を与えてくれる。結果として、空間の楽しさを与える。

6. 異質な小空間がそれぞれテーマ性を持ち連続していく。小空間を辿ることで物語性を得ることができる。

物語性は、基本的に半抽象的、象徴的、読み方を強制されずに読み手の解釈に任せられる。

7.6 追記。どの経路をたどっても、それぞれの物語性を感じ取れる。物語性は、半抽象的で読み手に強制をさせない。

「多経路選択性」のある空間。ここでは、一定方向のみの物語展開だけでなく、どの経路をたどっても、それなりに、豊かで楽しい空間が用意されている。

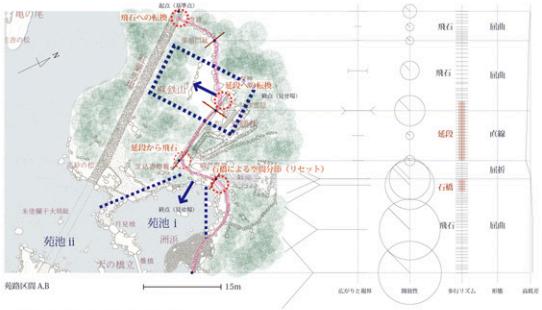
8. 人工物と自然の相互連結。周辺環境と接続。

人工的要素と自然それぞれの存在形式が自由でありながら相互連繋（関係性を持ち合わせている）している。

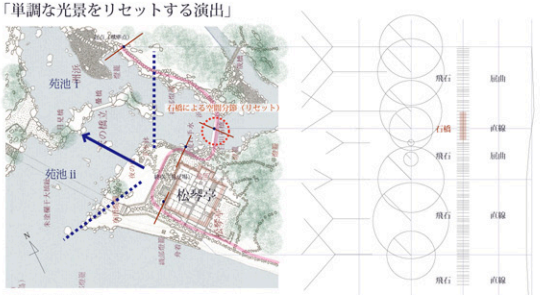
※相模博司著「廻遊から都市へ、シークエンスの日本」より参照

□桂離宮 池泉廻遊式庭園の４つの演出空間

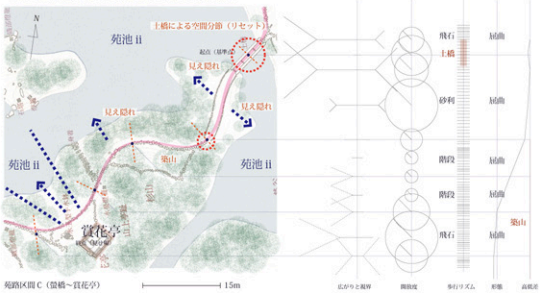
・苑路区間 A（紅葉馬場～洲浜）
「緊張感と強い高揚感を抱かせる演出」



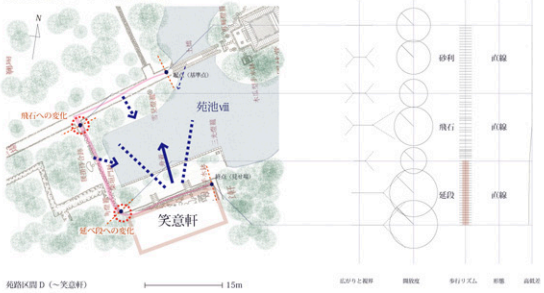
・苑路区間 B（洲浜～松琴亭）
「単調な光景をリセットする演出」



・苑路区間 C（螢橋～賞花亭）
「高低差を利用した異空間の演出」



・苑路区間 D（～笑意軒）
「振り返りによる再演出」



※桂離宮回遊式庭園の区間（茶室へ到るまでの区間）ごとの特徴的演出手法を抽出する。茶室へ向かう苑路には、それぞれ異なる演出がなされている。主に「広がりと視界」「開放度」「歩行リズム」「高低差」の指標から、以上４つの特徴的演出空間について考察し応用する。

4 住まい手の設定と複合プログラム

・家族構成

父（49 歳）…大工職人　息子（15 歳）…中学生
妻（46 歳）…店舗経営

□住まい手の設定

住まい手は、3 人家族。父親（49 歳）は、大工。木工品（主に家具など）の制作も行なっている。母親（4 6 歳）は、小さな喫茶店の経営を行う予定。子ども（15 歳）は、中学に通う好奇心旺盛の男の子。東京から移住するということで仕事場(作業場、小さな喫茶店）と制作した木工芸品のギャラリー、および販売場を併設させたコウバ＋茶屋＋住まいの新築を行う。

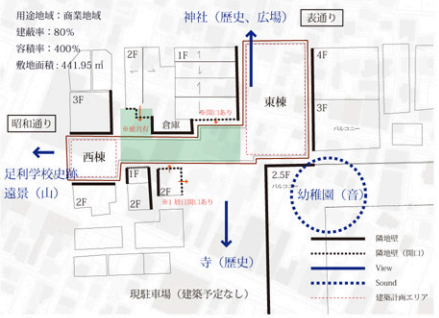
□複合プログラム

5 敷地選定「栃木県足利市　特殊型形状（鍵型）の計画地」

□計画地　栃木県足利市

栃木県足利市は、県南西部に位置し、人口はおよそ 16 万人。中央部を西から東に流れる渡良瀬川が特徴的であり、古来から織物の街として栄え商売が盛んに行われていた。歴史的に古い神社、仏閣が多く存在することから「東の小京都」と古くから形容されており、室町幕府を開祖とした足利氏の発祥の地であり、足利氏邸宅跡（現 鑁阿寺）を始め、フランシスコ・ザビエルにより「日本国中最も大にして最も有名な坂東の大学」と世界に紹介された足利学校など数多くの遺産が多く残されている地方都市である。

□敷地と周辺環境との関係性



この特殊型敷地のポテンシャルを引き出すため、西、北の強い軸性を利用する。商業エリアに属するこの敷地周辺は、商店街が連なり、表通り沿いは小さな商店が建ち並ぶ。西から北へ、北から西へ近道をする通り抜けて行けるかのように西側と北側を接続する可能性を持つ。敷地の竿の部分は、すぐ近くまで隣家が迫っているので、開口の開け方と、動線の設定に注意する必要性がある。2~3 メートル程度の幅しか無いので、隣地の環境を取り込みながら計画を行う。

厳島神社参道より計画地を眺む

足利学校史跡

厳島神社

善徳寺

鑁阿寺

6 空間構成ダイヤグラム

A）一般的

B）提案

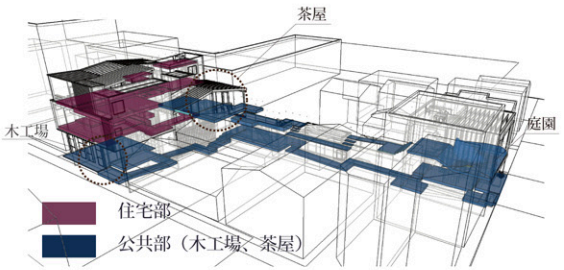
※「深さ」を与える基本空間概念、回遊式庭園空間特性と演出

※空間同士は、可能な限り距離を置かれており、印象的なプロセス空間を経ることで到達点の印象も変わる。

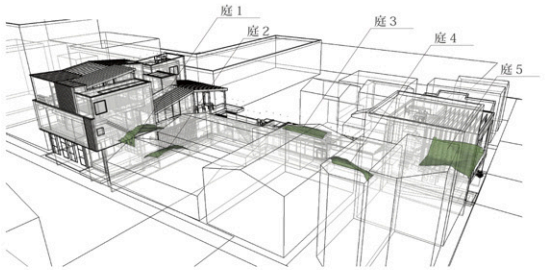
ある空間 A から空間 B までのプロセス空間に、**可能な限り物理的距離を与え、更に継起的空間を展開させる**ことで心理的距離も獲得する。プロセス空間を経ることで、次々と移りかわる光景が凝縮され、限られた空間以上の空間体験を行うことができ、更に移り変わることの美意識を喚起させる。

7 空間構成ダイヤグラム

a. 住宅部に引きこむ公共部（茶屋、木工場）



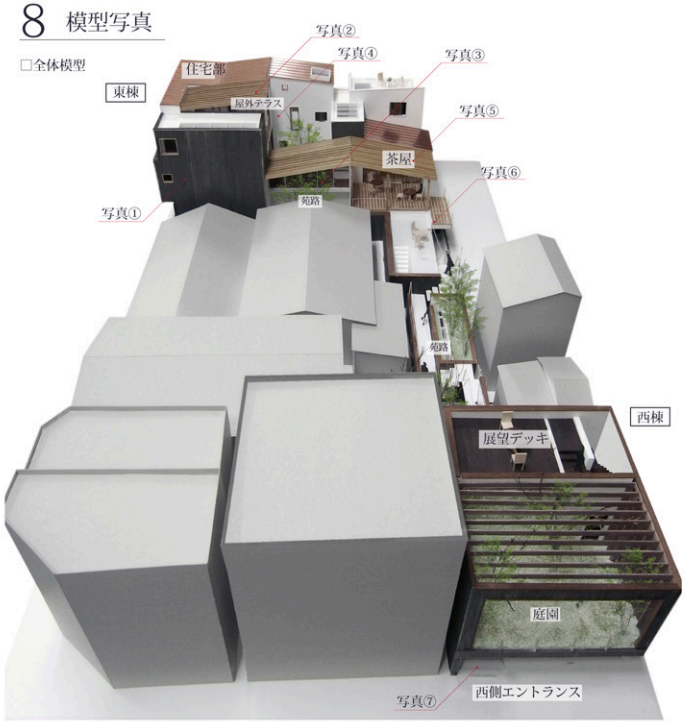
b. 計 5 箇所に設置された起伏の伴う「庭」



計画された空間**ほとんどが紆余曲折する（迂回するような）空間で構成**される。公共部は、東棟 1 階に設置された木工場に加え、東棟南側 2 階に設置された茶屋が存在する。茶屋に関しては、敷地の最深部に位置し、来客者は自ずと苑路空間を巡りアクセスする。表通り沿いの雑多な環境から切り離された小さな茶屋は、特別な環境となる。計画地の至る所（計 5 箇所）に設置された「起伏の伴う庭」は、それぞれ異なる形態をもち、それぞれの場所のシンボルとして、また空間を深化させる要素の一つとして設置されている。

8 模型写真

□全体模型



木工場

屋外テラス

苑路

住戸苑路

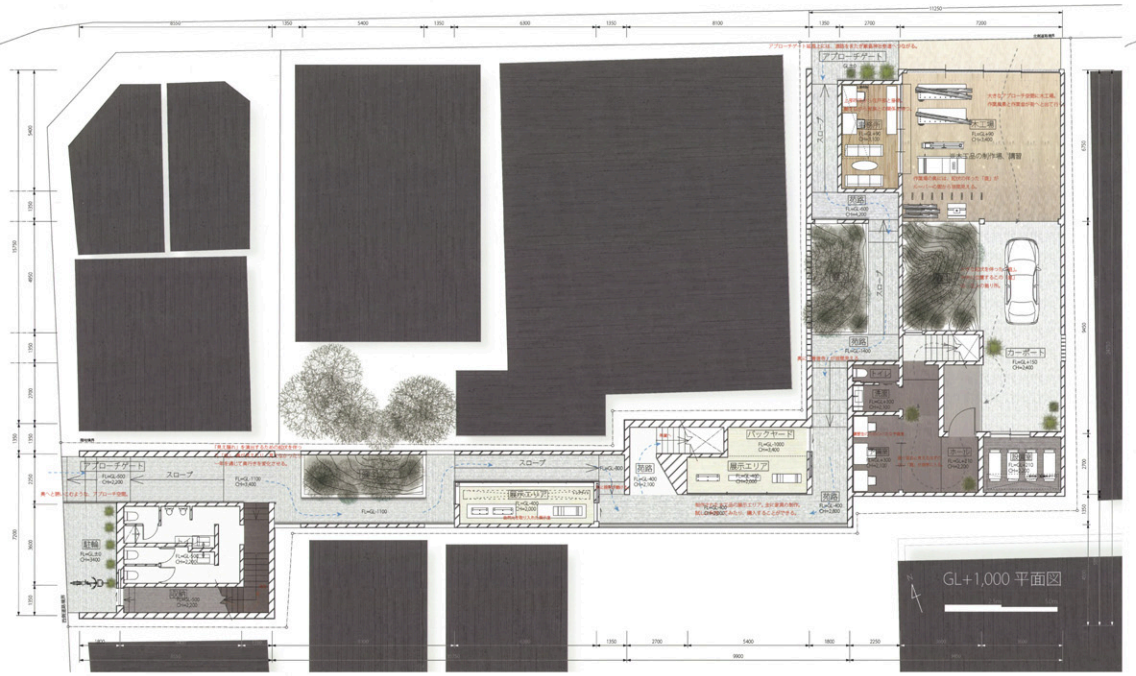
茶屋

西側エントランス

苑路

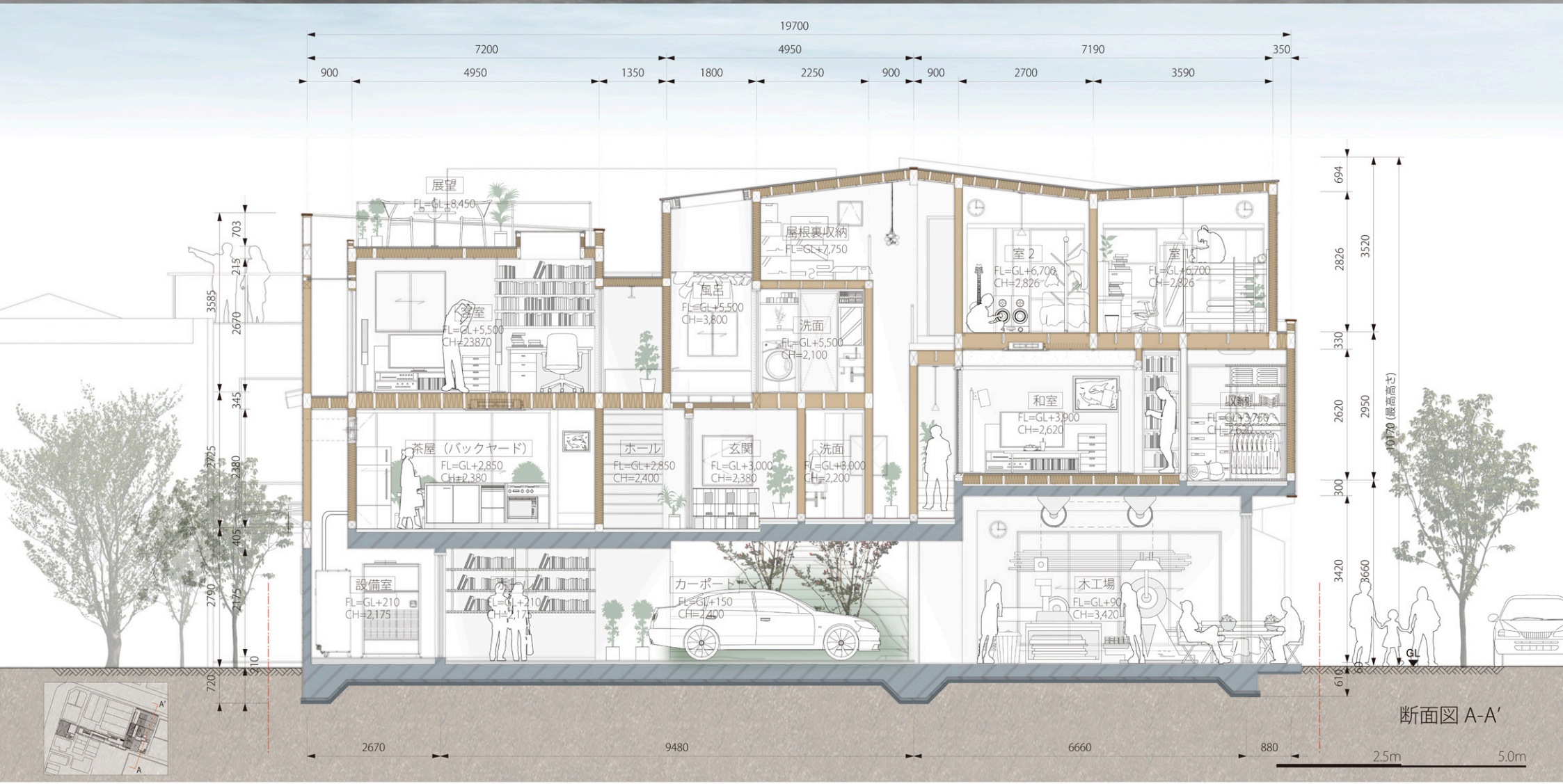
GL+5,000 平面図

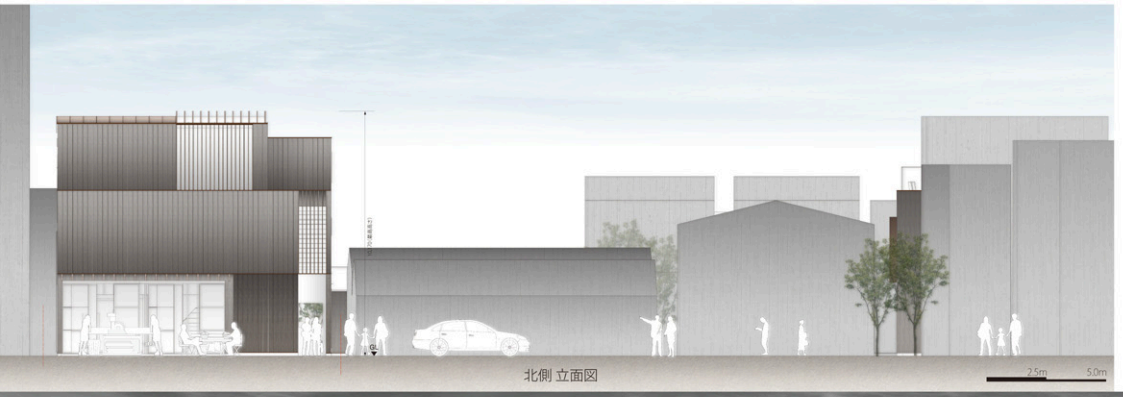
屋根伏図



基準階 平面図

GL+7,000 平面図


19700
7200
4950
7190
350
900
4950
1350
1800
2250
900
900
2700
3590
展望
FL=GL+8,450
屋根裏収納
FL=GL+7,750
室 2
FL=GL+6,700
CH=2,826
室 1
FL=GL+6,700
CH=2,826
客室
FL=GL+5,500
CH=23870
風呂
FL=GL+5,500
CH=3,800
洗面
FL=GL+5,500
CH=2,100
和室
FL=GL+3,900
CH=2,620
収納
FL=GL+3,700
茶屋（バックヤード）
FL=GL+2,850
CH=2,380
ホール
FL=GL+2,850
CH=2,400
玄関
FL=GL+3,000
CH=2,380
洗面
FL=GL+3,000
CH=2,200
設備室
FL=GL+210
CH=2,175
倉庫
FL=GL+210
CH=2,175
カーポート
FL=GL+150
CH=2,400
木工場
FL=GL+90
CH=3,420
GL
+10,170 (最高高さ)
2670
9480
6660
880
2.5m
5.0m
断面図 A-A'


北側 立面図

西側 立面図